

神殿講話

171. 7. 21

私ごとですが、昨年秋に長男が結婚して、今年の春には次男が結婚をさせて頂きました。長男は結婚して田原本町で暮らしてしまして、エクステリアといって外構工事を請け負う仕事をしています。ダンプやユンボや必要な機材類をそろえて独立して頑張っています。5月1日には初めての女の内孫ができました。名前は「結」といいます。結ぶという漢字一字です。ところがこの結ちゃんは、もちろんをびやゆるしを頂いていましたから安産はさせて頂いたのですが、お乳を飲んでも吐き出してしまうのでおかしいなあということで調べますと小腸か、子宮のところにデキモノがあって腸をふさいでいるので便が少ないのです。出産した奈良市立病院には小児外科はありませんので、生まれて5日目に救急車で生駒市の近大病院へ転院し、検査の結果、小腸の中にデキモノがあるとのことで9日に手術を致しました。立派な病院です。その後の経過も良くて5月末には退院して今では丸々太ってよく笑う赤ちゃんで安心しています。

一方次男は、結婚しても私と一緒に暮らすとのことで今は次男夫婦と暮らしていますが、嫁は年も若いから可愛いのですが、知らんことばかりで、私はちとストレスが溜まっています。笑い。嫁と姑の永遠の大問題はありますが、私は嫁と舅でもめないように気を遣いながら胃の痛む生活しています。この次男の嫁も妊娠してようで来年の3月ごろには孫が生まれる予定で私は喜んでいます。長女の所は、小学校6年生と3年生の女の子ですし長男の所も女の子で、連続女ばかり3人です。さて次は？楽しみです。

我が家の近況をお聞きいただいたのですが、これからが今日の神殿講話です。

私は、身上・事情などの節は、信仰の（心の中）現在地を知る一里塚であると考えています。

「通さぬは 通すがための道普請」といいます。

私たちは何のために信仰しているのでしょうか？

- ・ いい学校に入れて頂きたいから。
- ・ いい縁談がきますように。良縁に恵まれますように。
- ・ 頭のいい子が生まれますように。
- ・ いい会社へ就職できますように。
- ・ お金持ちになりますように。
- ・ 病気をしませんように。
- ・ 病気になっても早く直りますように。
- ・ 思うことが思うようになりますように。

お互いに幸せを求めて信仰をしているのだが…。

幸せとは、何にもいうことがない暮らしができることなのだと思います。

思うことが思うようになり、子どもはいい学校に入れて、卒業していい会社に就職できて、お給料もたくさん貰って、美人の嫁を貰って、または男前の男性と結婚して、頭が良くて丈夫ないい子に恵まれて、家族揃って健康で何にもいうことがない暮らしができるようにと誰もが願って生きているはずであります。

しかし、不幸なことが起こってくる。喜べないことが起こってくるのです。思うことが思うように行かないことが起こってくるのです。

なぜなのでしょう？

未信者の方ならここからにをいがけとなりますが。
信者さんの家庭に起こってくる事情・身上ならしっかり心を作らせて頂きましょうと。

まだいいのですが、最近の私の知っているところでもいろんな出来事が起こっています。

先日、京都にある教会で、私の専修科時代の同級生の孫が、生後 2 週間で出直しました。テレビでも放映されたらしいのでご存知の方もおられるでしょうか。月次祭の当日、祭典中に、金魚を飼っていたタライにつかって出直したとのことでした。生後 2 週間の乳飲み子が自分で這って歩いてその場所まで行くはずがありません。事件として、てんやわんやだったと友人を通じて連絡がありました。テレビカメラは教会の看板も写していたらしいですね。当日は 21 人が参拝されており、参拝者全員が警察の事情聴取を受けたと聞きました。誰が犯人かは聴いていませんが、亡くなった子どもの両親や孫をそんな形で亡くした友人の会長夫婦の嘆き悲しみはいかばかりかと心配をしています。しかも会長である友人は、半年前に胃ガンを手術をして、今回も 2 回目の手術のために入院中の出来事だったと聞きました。実は 3 ヶ月前に同級生を代表して私が京都の彼の教会へ見舞いに行ったからよく知っているのです。この友人の胃ガンはきっと直らないだろうと思います。もう死んでしまいたい心境だと思います。人間の思案からするとそんな心境でしょう。

皆さんならこんな事情をどのように悟りますか？

また、四国徳島にいる私の妹の教会の上級教会は、先年、教会が火事になり、神殿が全焼でお目標様も焼失しました。悲しいことにとても人の良かった老会長夫婦も焼死されました。出火原因は、漏電だと聞いています。

同じように、九州の友人の教会も火事で神殿焼失。先月にお目標様の再下付されたように聞きました。

皆さんならこんな事情をどのように悟りますか？

教会で見せられた大きな節です。何が起こって来るかわからない。結構や結構や有難いといっている教会でもこんなことが起こってきました。

ご承知のように、私の妻もガンで2年前に亡くなりました。なんでこんなことが起こってくるのでしょうか。事情や身上になって初めてなんでや？と首をかしげると思います。

身上になって、医者ももうとてもたすからんと言われたいたのに奇跡的に不思議なご守護を頂いたというならさすが信仰しているといいことがある。となるでしょう。

火事になったけども全焼しても可笑しくないようなところを少しのぼやで済んだ。大難を小難にいや無難にしてくださった。ああやっぱり信仰しているといいことがあるんやと思います。

しかし、前述のようにととても喜べないような節に遭遇したときにどのように考えたらいいか私はずっとそのことを考えています。その悟り方の一つをお聞き頂きたいと思います。

まず、私は家内が亡くなったときに、このお道を本当に信仰していたのか？親神様を信じていたのかと？なぜ家内を助けて頂けなかったのか？自問自答し苦しみました。それは今もまだ続いています。

しかし、最近になって、静かに考えるときに、親神様は人間に陽気暮らしをさせたいと思って人間を創ってくださったと聞かせて頂いていますように、親神様の思いは私たち人間の幸せを陽気暮らしを願われて人間を創ってくださったと思えるようになってきました。生まれ変わり出変わりして、八千八度の生まれ変わりを得て、ようやく今日に人間の姿形にと進化成長させて頂いていますが、一番肝心な心一つといわれる心はどのように成人させて頂いてきたのか？果たして私の前世はどんな人間だったのか？と考えるのであります。

虫鳥畜類と八千八度生まれ変わり、最後に女ザルが残り、一胎に男5人女5人の10人ずつの子供が宿りやがては現在の人間になってきたと元の理でお教えくださっています。これはたすけの理話として教えてくださっていることですが、私たち人間の親は親神様であり、人間はみな兄弟でありお互いに助け合って暮らすようにと長い年月かけて人間に作ってくださっているのだということです。

前世の姿は分かりません。「親は前世の姿、子は来世の姿」という意味の悟りを聞いたことがあります。また、「前生のいんねんよせてしゅごする これはまつだいしかとおさまる」一番いんねんの深い者と夫婦に組み合わせてくださり、お互いに助け合い生涯を送るのであります。そしてまた助け合うべき人を子どもに持ち心配したり喜んだりして子育ての楽しみを味わう。そうしながらより陽気暮らしをさせてやりたいと願う人間に成人させていただけると思うのであります。神様はいつも子どもである人間が喜ぶ顔が見たいと思ったださっているのです。しかし、八つのほこりでお教えくださるように「おいしい、ほしい、にくい、かわい、うらみ、腹立ち、欲、高慢」のほこりの心を遣ってしまい、それが積も

り積もっていんねんとなり陽気ぐらしの妨げとなって喜べない日々を送る結果となります。

そのいんねんの姿が事情に身上になって現れてきて「なんでやねん？」ということになります。むしろこんな喜べないことが起こってきたときこそ、今の自分の信仰させていただいている心の現在地を知ることだと私は考えています。事情や身上を通じて我が心のほこりを掃除していんねんを切り替えてやがては納消させていただけると思うのであります。

同じく私の専修科時代の同級生、女性であります、教会であります、この女性は主人を養子に迎えて、やがてその養子さんが会長になってくれて、教会の移転建築をされたのですが、毎日毎日支払いで頭を抱えていたときに、主人である会長さんはアルコール中毒になって毎日お酒を飲んで暴れるわで大変な時期を過ごしたらしいです。その会長さんはとうとう身体を壊して6年前に出直しました。残った借金は1億円だったようです。その後その女性が会長を引きついで必死の思いで歯を食いしばりながら、我が家のいんねんや自分のいんねんの姿やとたんのうしながら通ったと聞きました。

1つ昨年、家内が出直し失意のときに、この女性は「私も主人は出直したが、5年経った今は、結局は全て神様がしてくださったことなのだと思うんよ」としみじみと語ってくれたことがありました。「このよは みなみなかみのかしものや なんとおもってつこているやら」とお教えくださいますように、全てはその人の徳分に応じてお借りしている借り物なんですね。神のからだであるこの世で借り物であるすべてのものの御蔭によって日々楽しく暮らせて頂いているのお互いでありませう。

冒頭で申し上げた、いろんな予期せぬ事情や身上は、より一層成人させてやりたとの親心からであったのか？人間である我らが悲しみに涙を流したそれ以上に親である神様はもっともつらい思いをして下さっていたのかと今更ながら思うのであります。節から芽を出すことを待ち望んで下さっての事情身上であるのだと悟らせて頂きます。

事情や身上がなければ心を磨くことはできません。つらい悲しい中で人様の優しい心を嬉しいほど感じます。「全ては神様がしてくださったことなんよ」と苦勞のどん底を味わった彼女の言葉にはそれだけで素直に私の心に入ってきました。

信仰するという事は、こんな考えてなかった事情や身上に遭遇したときのためにこそ信仰しておるのだと言ってもいいのではないかと思います。節から芽を出すかその節で折れてしまうかはその後の将来で大きく差が出てくると思うのです。

京都の同級生は、今は一番つらい悲しい思いをしていると思います。通ってみんなに笑われて頭低く通るしかありません。いんねんからは逃げることは出来ないのです。後日、「全ては神様のしてくださったことやった」と述懐できるように一歩前進の心でこの道を歩みたいと考えています。

事情身上こそ心を磨き鍛えてくれる親心の現れであると信じて、「この世の全ては神様がしてくださったことよ」と笑って陽気ぐらしを求めて通らせて頂きたいと思っています。

去年は家内の1年祭と母の5年祭をつとめました。喜べない笑えない日々を過ごしました。その後、長男、次男の結婚、出産、また妊娠とやっと笑うことが出来る日を迎えました。家内が生きていたらもっと良いのには思いますがそれはせん無きこと。

全ては神様が、いんねんに応じて、見せてくださる親心であり、通さぬは通すがための道普請なのだと悟らせて頂き、節から芽を出す人生を目指してこれからも通らせて頂きたく思っています。

ご清聴ありがとうございました。